

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ(華の家)
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854-1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナを経て、元の生活・行事等を取り戻そうとする取り組みに勤しんでいる。人間らしく、喜び、楽しみ、色々な感情を互いに分かち合えるよう入居者と職員が同じ目線でおられるよう生活支援に留意している。電子化を活用しオンライン面会、研修を併用しながら家族間の面会は対面式を基本に行っている。館内の入室は限られたタイミングでのみ対応しているが、出来得る限り日頃の様子を理解していただけるよう情報発信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所内や玄関などに理念を掲示し、普段から念頭に入れて仕事に取り組むように努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へも加入し、地域の行事の受け入れも行っている。また、町内会の回覧板を利用して相互的な情報交換にも努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町内会長、地域の民生員等との接触を試み情報共有に努めているが、コロナ禍以降、なかなか会合の場等への出向く機会がない為、今後増やしていく事を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方々を委員になってもらい、会議で報告、議題をあらかじめ作り勉強会を通して事業所が抱えている課題、社会で問題となっている点等を情報交換しながら学ぶ機会として充てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	普段から連絡を取り合い、事業所が抱える課題への助言を貰ったり、相談にいつている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どのような事が身体拘束にあたるのか、様々な考え方や思いがある上で、厚労省の手引きを元に基準を知り事例を交えながら情報共有を重ねて学ぶ機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、どのような事が虐待にあたるのか、職員間でアンケート調査をし、夫々が気付きにくい特にスピーチロックがないかを職員会議、研修の機会を作り学ぶようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだまだ内容が難しい為、理解には至っていない。また新たな学ぶ機会を設ける必要がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	内容の説明を行いながら、特に注意していただきたい点、相手にとって理解しづらい点等は事例を交えながら深く丁寧に納得していただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時は勿論、運営推進会議の場を利用して情報を提供し、一方的な意見にならぬよう相互的な意見交換をしながら運営への改善につながるよう図っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃の勤務上、並びに職員会議等を通して運営の方針等の話を行いながら、職員の考えを元に、一方的な押し付けにならないように聞き取りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の希望勤務を聞きながら、ユニット毎で勤務調整が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加等は就業者数に余裕がない為、頻回は厳しいが外部へ目を向けながら資料など寄せながら法人内外での職員のレベルアップにつなげる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会加入を通して、様々な問題点をはじめ、相互的に協力できる共通事項を探しながら情報交換し、入居者の入退去時に協力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、医療機関等との聞き取りを前提とし受入前に本人の望む支援に必要な整備、並びに不安に感じる点に向けて職員間で情報共有した上で迎え入れ少しでも安心していただける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、要望、並びに不安な点の確認をしっかりと行い職員間で差異が生じないよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が望む思いに寄り添えるよう、しっかりとした聞き取りをした上で、協力機関からの情報も交えつつ理解を得られるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを、職員側で決めつけることなく、生活歴や聞き取り等からの情報を基本にしながら、工夫をこらして寄り添うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活が主体となるよう家族が望む考えも踏まえ、いくつかの案を提案しながら出来る事を探り、共に協力できる関係を構築するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望、特に面会制限がない限りは、ある程度の時間帯の提示をし玄関での面会や訪問を受けられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	落ち着いた暮らしが出来るよう調整役として支援し、意思疎通が難しい方の場合には間に入って声掛けしたり、相性を考慮する等している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても相談が受けられる環境は作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の聞き取り、生活歴を元に本人への声掛けの内容に留意し、興味の持てる話題から本人の考え方や思いを汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りの中で、これまでのサービス利用の経過を踏まえ本人の特性を尊重しながら、思いに寄り添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話の内容、仕草、身体状況を観察する事で、現状把握を行い、職員の多角的な視野を集約している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望を聞き、本人の思いを踏まえて職員間で意見交換を行いながら、出来る事に注視し医療機関等の意見も取り入れながら計画作りにあたっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ごとの記録をとり、気づき、状況の詳細を記録するようにしている。また、業務日誌内にも個別案件で且つ特記事項を記載し職員間で情報が錯綜しない工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況を受け入れながら変化が生じる要望である為、その都度協力医療機関の意見も取り込みながら柔軟に対応できるよう話し合いを重ねている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会を活かしながら、徘徊癖のある入居者が施設外に出た場合の協力体制（地域住民への捜索依頼、警察等公的機関への相談）を都度情報提供しながら意見を求めるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医がある方においては継続して受診（診察）出来るよう医療機関とも協力的に、本人の安心する人的環境を整えられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設として訪問看護ステーションとの契約を行っていないが、協力医療機関の夫々の医師・看護師の協力を貰いながら変化に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側に定期的に確認をとり、本人の状態説明を担当スタッフ等と連携してもらいこまめな情報交換を行えるようにしている。また、早目の退院に繋がるよう、かかりつけ医との連携も行いながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面談などを通して、家族の意向の聞き取り、又消防隊員からも急変時の延命措置希望有無確認も行っている。施設側で可能な点の説明を行い、病院等との連携を密に取りながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時の緊張や、動揺を考え、入居者毎の急変時を日頃から想定した話し合いを行い、遭遇した場合の初期対応、応急救置法の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。特に、火災、地震発生時の避難誘導の練習を積むようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の表情を見ながら場面ごとに声掛けの頻度を考慮し、日々の様子から反応を想定して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の間ではあるが、なるべく本人の身体状況に合わせた支援をしたり、意思表示ができない方においては仕草等から検討を付け家族とも確認取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶時間、入浴等の基本的時間は定めてあるが多少ずれても、強要することなく本人の状況に合わせて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	メリハリの出来る方においては継続した整容の支援を、嫌がる方においては最低限していただきたい点の声掛け、着脱支援を行う。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく本人が咀嚼して召し上がり、香り、見た目食欲を失う事が無いように食事形態を安易に職員本位で決めず出来るだけ本人の食欲を失わない工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に身体状況、持病によって制約はあるが食事摂取量と水分量の確認をしながらチェック表活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科検診を受けながら口腔内の状態確認をし、口腔ケアのアプローチをミーティングで共有できるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	服薬指導を貰いながらも、なるべく腸動運動が改善するよう、声掛けで促しトイレでの排泄を目標とし、失敗で不穏になる切欠をなくす為にも個々のパターンを把握するよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜の量を摂っていただくよう、声掛けや調味料の工夫を行い、部屋で籠り切りを防ぐ為にも、ホールへの行き来をなるべくしていただき、体操もテレビ体操やレクを取り入れ体を動かす工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	強要しない声掛けを心掛け年齢や体調面を考慮した上で回数の配慮をしている。時には時間帯の幅をもたせるなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床していただくようにしているが、本人の習慣も大切にしている。不穏、不安を抱いて寝れない方は、ホールで傾聴したり、一緒に過ごせる時間帯は寄り添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の大まかな内容は理解し、間違いの無いよう服薬時も見守りを徹底している。症状変化においては職員間で情報共有できるよう工夫し、疑問を抱く点においては主治医への確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が本人にとって安定したものである事を根本的に、唄やカルタ取り等昔遊び等取り入れ、制作系等であっても役割を持っていただき生活の張りにしていだけるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍以降、娯楽での外出支援はしていない。家族との調整により、病院受診、散歩等は徐々に支援の幅を戻している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合は、代行したり、自分で買い物が出来るよう支援したり対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	掛かってきた電話の取り次ぎ、本人の希望する際の電話を掛ける等要望に応じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調光、清潔さに注意を払い、季節の飾り物、壁掛け等で家庭的な雰囲気を促し、家庭である事を認識していただけるよう意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席は勿論の事、各所に設置しているソファ、キッチン付近にある椅子等自由に過ごせるように置いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	防災の関係上、出入り口付近は家財道具を置かないように注意を払いながら、使い慣れた物、過ごしやすい物等取り入れられるよう対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや貼紙等分かり易く誘導できる工夫、少しでも自分で出来る工夫として図柄・文字を大きくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない